知る、考える、進めるために。
除染情報プラザ 福島県 環境省

福島再生 REPORT 61

平成26年3月13日

福島の除染活動状況をお伝えします。

常磐自動車道

除染とインフラ復旧の一体的施工で広野－常磐富岡間が再開通。福島の復興が加速する。

復興への思いを表す詩、「念ずれば花ひらく」が刻まれた祈念プレート除幕式。福島県、広野町、楢葉町、富岡町とＮＥＸＣＯ東日本により共同建立された。

式典後、参加者が同区間往復の試走。同日１５：００より一般利用者への供用がスタート。

広野-常磐富岡ＩＣ間上下線に設置されたモニタリングポスト。再開通後もモニタリングを継続。

福島県浜通りを縦貫する常磐自動車道広野インターチェンジ（ＩＣ）と常磐富岡ＩＣ間が、予定よりもひと月早い平成２６年２月２２日、約３年ぶりに再開通しました。

環境省による除染は、回収型高圧水洗浄などの新技術の導入、作業員の努力によって、降雪等の影響による遅れを取り戻し、当初の予定通り平成２５年６月に終了しました。また、東日本高速道路株式会社（以下ＮＥＸＣＯ東日本）による復旧工事も完了し、その後のモニタリング検査で、空間線量率が目標値を下回ったことも確認されました。

同日、この区間の再開通式が広野ＩＣで開催され地元の富岡・楢葉・広野町長はじめ、福島県知事が出席しました。列席した環境省・井上信治副大臣は「この除染作業の特徴は、ＮＥＸＣＯ東日本による路面舗装等の復旧工事等による線量低減も考慮して実施した点です。この遮へい効果が働き、当区間の除染の目標値である毎時３．８μＳｖを大きく下回ったことも確認できました。この除染とインフラ復旧の一体的施工は、復興を加速させる好事例であり、今後の除染においても線量の低減、廃棄物の削減、工期の短縮を同時に可能とすることが期待されます」と挨拶しました。式典後には、出席者により、復興を祈念した植樹やプレートの除幕式が行われました。

今回の再開通により、常磐自動車道に並行する国道６号の渋滞緩和が見込まれるだけでなく、いわき市をはじめ周辺自治体へ避難を余儀なくされている住民のみなさまが、一時帰宅する際の負担軽減にもつながる、という期待の声も寄せられています。

今後も国は地元自治体や関係機関とともに、除染とインフラ復旧の一体的施工の実施など、地域の復興に向けて、さまざまな方策で除染を推進していきます。